

見本

## Checkシート【症状別】

施設名

記入者

Check: 症状別評価項目 ※症状別評価項目は回答できる方のみご回答ください。

## 【痛み】

● 各項目について、ご自身ではなく、緩和ケアチーム全体の状況について該当する○を一つクリックしてください。回答が難しい場合は「判断できない」を選び、その理由を自由回答欄に記載してください。

できていない

あまりできていない

おおむねできています

できている

判断できない

① 痛みの原因（がん性疼痛か非がん性疼痛か、など）に基づいてオピオイド鎮痛薬の適応を検討している。

② アセスメントし診断した病態へのアプローチができるかどうか、原因療法の可否を検討している。（例、骨転移痛に対する放射線療法、ドレナージなど）

③ オピオイド導入時や増量時に、悪心・便秘・眠気・呼吸抑制・せん妄などの副作用を患者・家族が理解できるように配慮している。

④ オピオイド導入時や増量時に、処方をするのか、副作用発言時の対応を誰がするのかを明確にしている。

⑤ 依頼元の医療福祉従事者と相談しオピオイド鎮痛薬の種類や投与経路の変更を適切に行うことができる。

⑥ 鎮痛補助薬（抗けいれん薬、ステロイド、抗うつ薬）の使用について検討し種類、用量の調整ができる。

⑦ 疼痛緩和につながる薬物療法以外の方法（マッサージ、体位調整、電法など）を検討したうえで、依頼元の医療従事者に提案できる。

⑧ オピオイドの過剰使用や不適切使用が疑われたとき、痛みの増悪だけでなく使用に至る精神的背景などを評価し、どのように理解し対応するかを他の医療従事者と相談できる。

## 【痛み】に関する問題点・課題・コメントなど（自由記載）

## 【呼吸困難】

① 呼吸困難の原因として、悪性胸水・上大静脈症候群・肺塞栓・感染症・貧血などの合併症の鑑別を提案できる。

② 呼吸困難に対するオピオイドの使用について、患者の状態に応じて容量・用法を提案できる。

③ 呼吸困難に対して、オピオイド以外の対症療法について薬物療法（抗不安薬、ステロイド、輸液管理）・非薬物療法（環境調整、体位調整、呼吸リハビリテーションなど）を提案できる。

## 【呼吸困難】に関する問題点・課題・コメントなど（自由記載）

● 各項目について、ご自身ではなく、緩和ケアチーム全体の状況について該当する○を一つクリックしてください。回答が難しい場合は「判断できない」を選び、その理由を自由回答欄に記載してください。	できていない	あまりできていない	おおむねできています	できている	判断できない
<b>【せん妄】</b>					
① 現在の状態だけでなく、入院前からのリスク因子（摂食・栄養状態、常用薬、飲酒、認知症など）についても評価している。	○	○	○	○	○
② 薬剤が原因のせん妄に対し、患者の症状や身体状態に配慮しながら、原因薬剤の適切な減量、中止、代替薬の提案ができる。	○	○	○	○	○
③ せん妄を体験した患者や家族に、症状の理解や対応を含む説明と、つらさに対する心理ケアを行える。	○	○	○	○	○
④ せん妄症状への対応薬剤として抗精神病薬を選択できる。	○	○	○	○	○
⑤ せん妄に伴うリスクを評価し、人権や尊厳を尊重しつつ適切に環境調整や安全管理を行える。	○	○	○	○	○
<b>【せん妄】に関する問題点・課題・コメントなど（自由記載）</b>					
<b>【抑うつ・不安】</b>					
① 依頼された全ての患者に対して、抑うつ・不安などの精神心理的な問題があるかを評価している。	○	○	○	○	○
② 抑うつ・不安を有する患者から十分に話を聴き、抑うつ・不安の背景要因・程度を評価している。必要に応じて家族、依頼者である医療福祉従事者からも情報収集している。	○	○	○	○	○
③ 抑うつ・不安を有する患者に対して、抑うつ・不安の背景要因に応じた心理的アプローチ（傾聴、共感など）や薬物療法（抗不安薬、抗うつ薬などの向精神薬）による対応を行っている。	○	○	○	○	○
④ 抑うつ・不安を有する患者に対して薬物療法を開始している場合、薬剤の効果を適切に評価するとともに、副作用出現時あるいは症状改善後に漸減あるいは中止についても検討している。	○	○	○	○	○
⑤ 抑うつ・不安を有する患者の対応に際して、必要に応じて院内あるいは外部の精神保健専門家と協働できる。	○	○	○	○	○
<b>【抑うつ・不安】に関する問題点・課題・コメントなど（自由記載）</b>					